

事業概要

令和4年度

大阪市食肉衛生検査所

令和4年度 食肉衛生検査所事業概要

目 次

第1章 総 説

1 沿革	4
2 機構・組織	5
(1) 機構図	5
(2) 組織図	5
(3) 職員構成	5
3 大阪市食肉衛生検査所施設の概要	6
(1) 施設面積	6
(2) 平面図	6
4 大阪市中央卸売市場南港市場の概要	7

第2章 業務の概要

1 食肉衛生検査所事務分掌	8
2 関係手数料	8
3 と畜検査の流れ	9

第3章 事業の概要

1 畜種別検査頭数	10
2 獣畜のとさつ禁止又は廃棄したものの原因	11
3 時間内・外別の切迫・病畜の検査頭数	12
4 と畜場外とさつ頭数	12
5 検査室業務	13
(1) 精密検査頭数および全部廃棄頭数	13
(2) 精密検査件数	13
(3) BSE（牛海綿状脳症）スクリーニング検査頭数	13
(4) 特定部位使用許可申請件数	13

(5)	残留抗菌性物質サーベイランス検査関係	13
(6)	衛生管理に関する微生物試験	14
(7)	監視指導	14
(8)	衛生検査	14
(9)	放射性物質スクリーニング検査	14
(10)	残留有害物質モニタリング検査関係	15
(11)	残留抗菌性物質精密検査関係	15
6	食鳥検査関係	16
(1)	食鳥検査羽数及び食鳥のとさつ、内臓摘出禁止又は廃棄したものの原因	16
(2)	残留有害物質モニタリング検査関係	17
(3)	食鳥処理場における微生物試験	18
7	証明書交付件数	19
8	衛生教育	19
9	検査員の研修	19
(1)	新規採用者及び異動による転入者に対する研修	19
(2)	職場研修	19
(3)	所外研修及び研究発表	19
10	職員の健康管理と公務災害防止対策	20

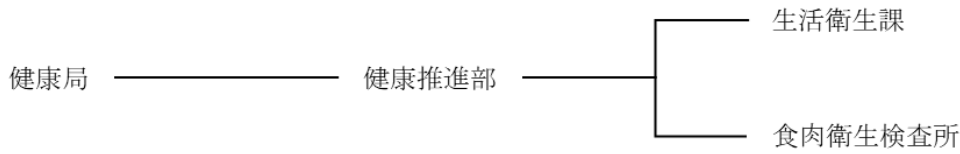
第1章 総 説

1 沿 革

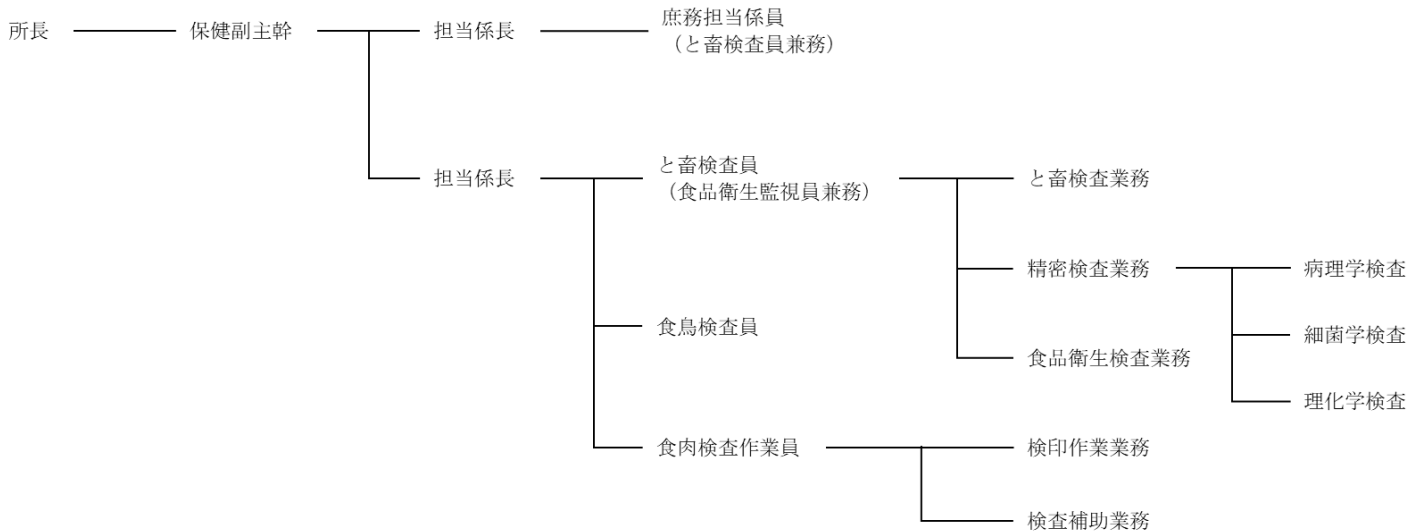
明治39年	4月	「屠場法」制定
明治42年	6月	西成郡今宮村が村営と場を開設
明治43年	7月	西区(現大正区)南恩加島町に最初の大阪市立と場である「大阪市立木津川と場」を開設
大正12年	3月	「中央卸売市場法」制定
大正14年	3月	今宮町が大阪市編入により、町営今宮と場を本市が継承し「市立今宮と場」と改称
昭和14年	2月	両と場を統合して西成区津守町に「大阪市立と場」を開設
昭和25年	4月	大阪市が政令市となり、大阪府から本市に検査業務移管「大阪市衛生局公衆衛生課食品衛生係検査員詰所」を設置
昭和28年	4月	「公衆衛生課食品獣疫係検査員詰所」と改称
昭和28年	8月	「屠場法」廃止、「と畜場法」制定
昭和33年	1月	「大阪市中心卸売市場食肉市場」を開設(全国で最初)
昭和33年	2月	徳島ハム(株)(現、日本ハム(株))が大坂工場と畜場を開設、西淀川保健所が所管
昭和33年	4月	「食品衛生課乳肉衛生係検査員詰所」と改称
昭和34年	7月	「食品衛生課と畜検査所」と改称、第三類事業所(係長級)となる
昭和35年	4月	病理検査室を設置
昭和36年	11月	食品衛生監視員の職権付与される
昭和40年	6月	検査所庁舎新築、細菌検査室を設置
昭和42年	7月	「大阪市食肉衛生検査所」と改称
昭和43年	4月	日本ハム(株)大阪北工場と畜場の検査業務が当所に移管
昭和46年	4月	事務室を増築
昭和47年	4月	第二類事業所(課長級)に昇格
昭和50年	11月	理化学検査室を設置
昭和53年	1月	日本ハム(株)大阪北工場検査室新築される
昭和55年	12月	病理検査室を増築
昭和59年	4月	新築された大阪市中央卸売市場南港市場(住之江区)に移転、衛生検査室を設置
昭和61年	4月	住之江保健所と南港市場内食品関係施設の監視指導、収去等の業務分担決定
平成元年	4月	食品衛生法第18条の食品衛生検査施設となる
平成3年	3月	日本ハム(株)大阪北工場附設と畜場閉鎖
平成10年	1月	と畜場法施行規則一部改正に伴い大規模な設備改善
平成13年	10月	BSE(牛海綿状脳症)の全頭検査始まる
平成21年	3月	生活衛生協会が行っていた食鳥検査業務が当所に移管
平成24年	1月	放射性セシウムスクリーニング検査用機器導入
平成25年	7月	BSE(牛海綿状脳症)の全頭検査廃止
令和3年	6月	HACCPの義務化に伴う衛生管理に関する外部検証の実施

2 機構・組織

(1) 機構図



(2) 組織図



(3) 職員構成（令和4年4月1日現在）

職種	所長 (課長級)	保健副主幹 (課長代理級)	担当係長 (係長級)	係員	合計
獣医師	1	2	2	26	31
食肉検査作業員				4	4
合計	1	2	2	30	35

3 大阪市食肉衛生検査所施設の概要

(1) 施設面積

総面積：863.0m²

事務室関係：407.0m²

病理検査室関係：105.6m²

細菌検査室関係：116.0m²

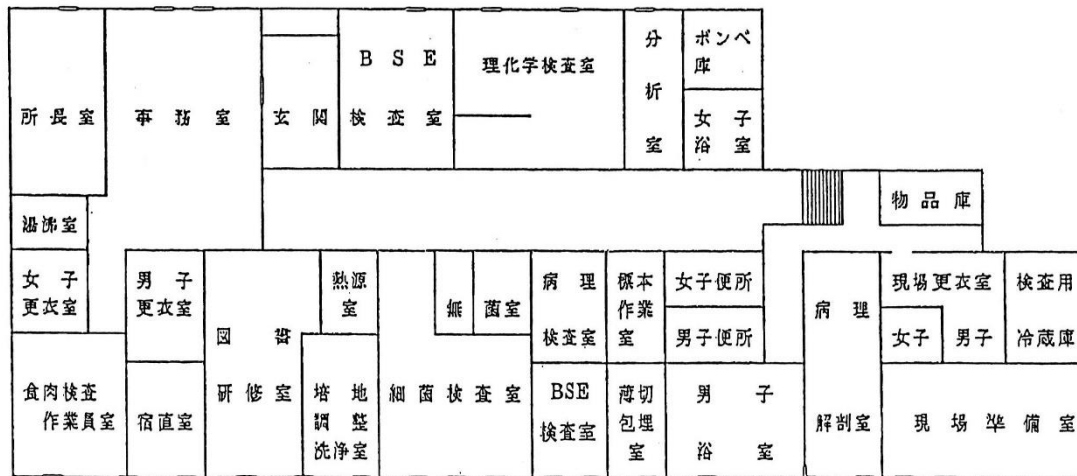
理化学検査室関係：79.8m²

BSE検査室：42.7m²

検査用冷蔵庫：29.0m²

その他の施設：83.0m²（動物飼育室、病畜検査室、隔離所、生体検査室等）

(2) 平面図



4 大阪市中心卸売市場南港市場の概要

施設及び処理能力

位 置：大阪市住之江区南港南5丁目2番48号
敷地面積：100,079m²
建面積：21,345m²
延面積：31,140m²
本館棟：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造鉄筋コンクリート造）
2階建（一部3階建） 23,815m²
仲卸棟：鉄筋コンクリート造
平屋建（一部3階建） 5,715m²
福利厚生棟：鉄筋コンクリート造2階建 1,487m²

主要施設

種 類	面 積	能 力
卸売場	1,594m ²	取扱頭数牛400頭 豚2,100頭/日
仲卸売場	2,948m ²	
冷蔵庫	5,623m ²	収容能力
枝肉冷蔵庫	1,053m ²	牛200頭 豚1,000頭/日
搬入枝肉冷蔵庫	475m ²	牛100頭 豚550頭/日
部分肉冷蔵庫	431m ²	170トン
仲卸冷蔵庫	2,454m ²	牛換算1,500頭/日（牛1＝豚2.5）
係留所	1,991m ²	牛200頭 豚750頭/日
食肉処理場	1,259m ²	牛200頭 豚1,000頭/日
内臓処理場	1,434m ²	牛200頭 豚1,000頭/日
副生物処理場	1,797m ²	
部分肉加工場	908m ²	牛50頭 豚100頭
内臓加工場	268m ²	
検査施設（食肉衛生検査所）	863m ²	
市関係事務所	1,264m ²	
業者関係事務所等	3,028m ²	
受水施設	42m ²	1,600m ³ （内工業用水700m ³ ）
汚水処理施設	695m ²	1,200m ³ /日
汚物処理施設	514m ²	
駐車場	12,000m ²	駐車可能台数 約460台
洗車場		洗車台数 5台

第2章 業務の概要

1 食肉衛生検査所事務分掌（大阪市事業所事務分掌規則より）

- (1) と畜検査に関すること
- (2) 中央卸売市場南港市場（以下この項において「市場」という。）において取り扱う食品の試験、検査に関すること
- (3) 市場内の食品関係営業施設の監視及び指導に関すること
- (4) と畜及び市場において取り扱う食品についての調査研究に関すること
- (5) 検査手数料の徴収に関すること
- (6) と畜場法に基づく届出及び申請書の受付並びに許可申請手数料の徴収に関すること
- (7) 牛海綿状脳症特別措置法に基づく申請書の受付に関すること
- (8) 食鳥検査に関すること
- (9) 農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律の規定に基づく市場において取り扱う食品に係る輸出証明書の発行及び適合施設の認定に関すること

2 関係手数料

(1) と畜検査手数料

種 別	手 数 料
牛、馬	1頭につき 400円 (大阪市食肉処理場においては200円)
豚、子馬、子牛、山羊、めん羊	1頭につき 200円 (大阪市食肉処理場においては100円)

(2) 食鳥検査手数料

種 別	手 数 料
食鳥	1羽につき 3円

(3) 証明書交付手数料

1件につき 250円

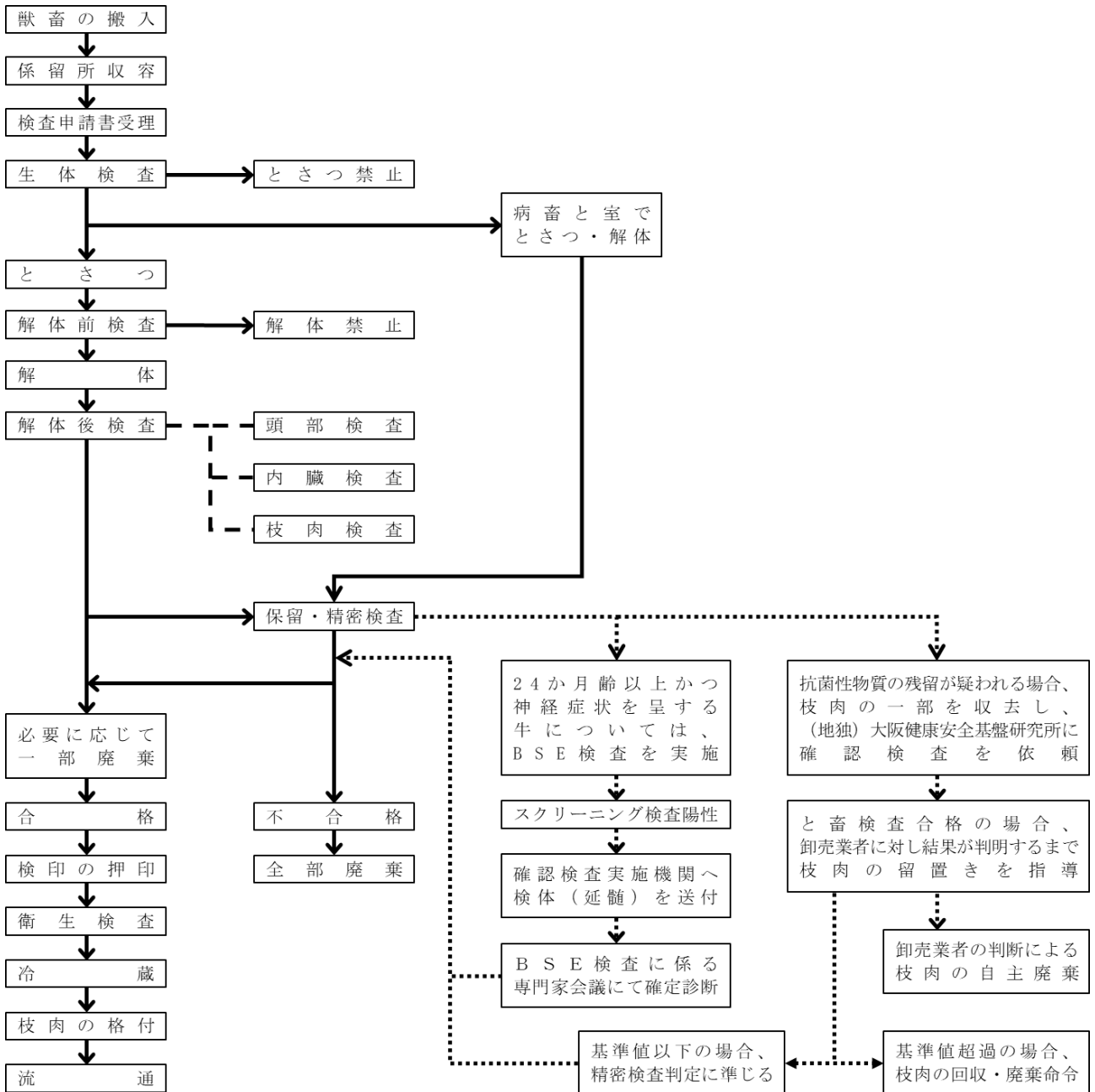
ただし、農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律の規定に基づく事務に係る手数料のうち、輸出証明書の発行の申請に対する審査手数料については1件につき870円

(4) 施設認定農林水産物等の適合施設の認定の申請に対する審査手数料

1件につき 20,900円

ただし、認定要件の内容に照らし、当該申請に係る施設の実地調査を省略することができるものとして市長が定める場合については1件につき10,400円

3 と畜検査の流れ

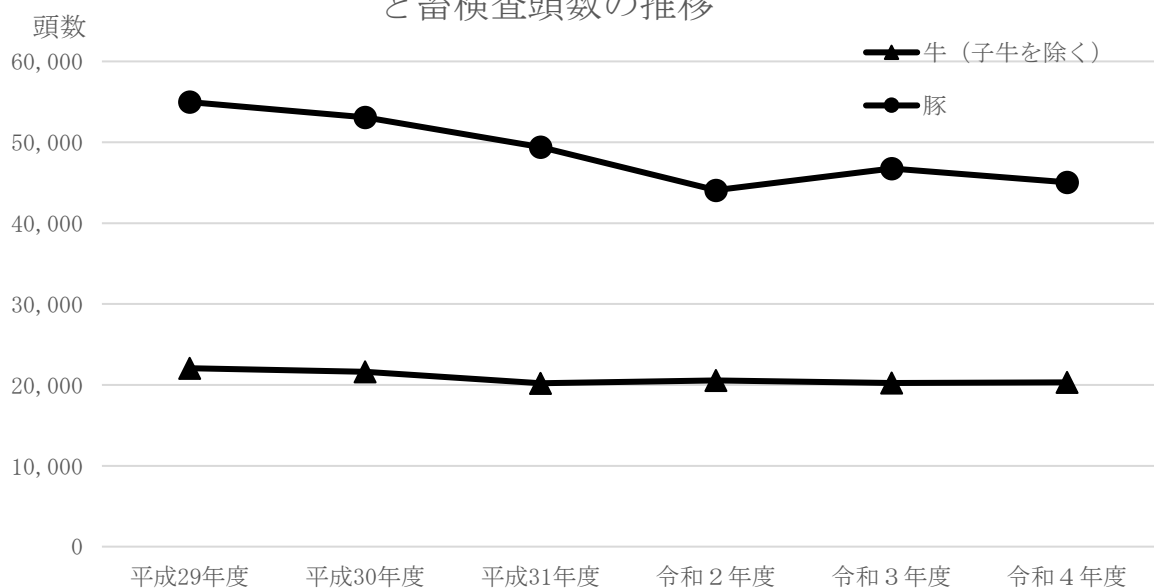


第3章 事業の概要

1 畜種別検査頭数

	総頭数	牛			子牛	豚	馬	めん羊・山羊
		肉用種	乳用種	合計				
平成29年度	77,040	21,543	519	22,062	6	54,972	0	0
平成30年度	74,686	20,921	680	21,601	8	53,077	0	0
平成31年度	69,633	19,460	744	20,204	8	49,421	0	0
令和2年度	64,655	20,110	460	20,570	4	44,081	0	0
令和3年度	67,013	19,793	448	20,241	3	46,769	0	0
令和4年度	65,378	19,972	330	20,302	8	45,068	0	0
令和4年4月	5,678	1,952	24	1,976	0	3,702	0	0
5月	4,891	1,482	17	1,499	0	3,392	0	0
6月	5,294	1,427	25	1,452	1	3,841	0	0
7月	5,331	1,878	27	1,905	1	3,425	0	0
8月	5,492	1,478	28	1,506	2	3,984	0	0
9月	5,771	1,497	21	1,518	0	4,253	0	0
10月	6,003	1,702	39	1,741	0	4,262	0	0
11月	6,282	2,072	39	2,111	1	4,170	0	0
12月	5,709	2,115	26	2,141	2	3,566	0	0
令和5年1月	4,859	1,407	21	1,428	1	3,430	0	0
2月	4,999	1,533	30	1,563	0	3,436	0	0
3月	5,069	1,429	33	1,462	0	3,607	0	0

と畜検査頭数の推移



2 獣畜のとさつ禁止又は廃棄したもの原因

			実頭数	疾病別頭数															計	
				細菌病				寄生虫病			その他の疾病									
				炭疽	豚丹毒	サルモネラ症	放線菌病	プトラズキマ症	ジストマ病	その他	膿毒症	敗血症	尿毒症	黄疸	水腫	腫瘍	汚染による炎症産物	炎症による変性又は萎縮		その他
成牛	肉用種	禁止	0	0	/	0	/	0	/	0	0	0	0	0	0	/	/	0	0	
		全部廃棄	21	0	/	0	0	0	0	0	1	7	6	0	0	7	0	0	0	21
		一部廃棄	14,739	/	/	1	/	44	2	0	/	/	/	/	88	14	11,748	2,203	1,421	15,521
	乳用種	禁止	0	0	/	0	/	0	/	0	0	0	0	0	0	/	/	0	0	
		全部廃棄	13	0	/	0	0	0	0	0	1	8	0	0	0	4	0	0	0	13
		一部廃棄	317	/	/	0	/	0	0	0	/	/	/	/	34	2	385	103	118	642
子牛	禁止	0	0	/	0	/	0	/	0	0	0	0	0	0	/	/	0	0		
	全部廃棄	0	0	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	一部廃棄	7	/	/	0	/	0	0	0	/	/	/	/	0	0	12	2	3	17	
豚	禁止	0	0	0	/	0	/	0	0	0	0	0	0	0	/	/	0	0		
	全部廃棄	85	0	10	0	0	0	0	0	10	46	5	0	7	7	0	0	0	85	
	一部廃棄	39,942	/	/	0	/	0	63	0	/	/	/	/	227	21	35,819	2,165	2,686	40,981	

3 時間内・外別の切迫・病畜の検査頭数

	成牛						子牛						豚		
	切迫			病畜			切迫			病畜			病畜		
	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計
4月	0	0	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0	9	3	12
5月	0	0	0	14	0	14	0	0	0	0	0	0	6	0	6
6月	0	0	0	15	0	15	0	0	0	0	0	0	10	0	10
7月	0	0	0	8	0	8	0	0	0	0	0	0	5	3	8
8月	0	0	0	21	5	26	0	0	0	2	0	2	10	1	11
9月	0	0	0	11	1	12	0	0	0	0	0	0	12	1	13
10月	0	0	0	5	2	7	0	0	0	0	0	0	14	1	15
11月	0	0	0	4	1	5	0	0	0	0	0	0	5	1	6
12月	0	0	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0	15	0	15
1月	0	0	0	12	1	13	0	0	0	0	0	0	3	2	5
2月	0	0	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0	8	0	8
3月	0	0	0	16	3	19	0	0	0	0	0	0	11	1	12
計	0	0	0	129	14	143	0	0	0	2	0	2	108	13	121

4 と畜場外とさつ頭数

	成牛		子牛	豚
	肉用種	乳用種		
総頭数	0	0	0	0
切迫とさつ	不慮の災害による負傷		0	0
	不慮の災害で救うことのできない状態		0	0
	難産		0	0
	産褥麻痺		0	0
	急性鼓脹症		0	0
政令第四条によるとさつ	1号によるもの		0	0
	2号によるもの		0	0
自家用とさつ	0	0	0	0

5 検査室業務

(1) 精密検査頭数及び全部廃棄頭数

	成牛	子牛	豚	計
と畜検査頭数	20,302	8	45,068	65,378
精密検査頭数	114	4	219	337
合格頭数	80	4	134	218
全部廃棄頭数	34	0	85	119

(2) 精密検査件数

	実頭数			検査の内訳					計
	成牛	子牛	豚	病理解剖検査	組織検査				
病理学検査	114	4	219	18,131	7,833				25,964
微生物学検査	成牛	子牛	豚	塗抹鏡検	分離培養	同定	血清反応	PCR	計
	75	3	182	940	4,391	2,889	27	29	8,276
理化学検査	成牛	子牛	豚	血液等の検査	筋肉等の検査				計
	114	4	219	1,156	0				1,156

(3) BSE（牛海綿状脳症）スクリーニング検査頭数 令和4年4月～令和5年3月分

分類	頭数
生後24カ月齢以上で症状を呈する牛	0

(4) 特定部位使用許可申請件数 0 件

(5) 残留抗菌性物質サーベイランス検査関係

		検査頭数	検査件数	検査内訳					合格頭数	廃棄頭数
				直接ディスク法	直接法	簡易検査法	分別推定法	定性定量試験 ()		
筋肉	牛	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	子牛	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	豚	14	84	42	42	0	0	0	14	0

(6) 衛生管理に関する微生物試験

ア 一般生菌数

検査部位	検査件数	一般生菌数A (個/cm ²)			
		$A < 10^2$	$10^2 \leq A < 10^3$	$10^3 \leq A < 10^4$	$10^4 \leq A$
牛・枝肉	0	0	0	0	0
豚・枝肉	0	0	0	0	0
牛・内臓	0	0	0	0	0
牛・枝肉 (切除法)	60	14	35	11	0
豚・枝肉 (切除法)	60	1	19	32	8
器具・容器	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0

イ 腸内細菌科菌群数

検査部位	検査件数	腸内細菌科菌群数B (個/cm ²)			
		$B < 10^2$	$10^2 \leq B < 10^3$	$10^3 \leq B < 10^4$	$10^4 \leq B$
牛・枝肉	0	0	0	0	0
豚・枝肉	0	0	0	0	0
牛・内臓	0	0	0	0	0
牛・枝肉 (切除法)	60	59	1	0	0
豚・枝肉 (切除法)	60	58	2	0	0
器具・容器	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0

(7) 監視指導

業種		監視指導件数
要許可	飲食店営業	4
	食肉処理業	2
届出施設		0

(8) 衛生検査

細菌学検査	理化学検査	病理学検査	分子生物学検査	瑕疵確認	その他の検査	計
0	0	0	0	0	0	0

(9) 放射性物質スクリーニング検査

	検査頭数	検査件数	陽性検体数
牛肉	45	45	0

(10) 残留有害物質モニタリング検査関係

抗生物質			牛			豚			計
			腎臓	肝臓	筋肉	腎臓	肝臓	筋肉	
微生物学的試験法	簡易検査法	検査頭数	28			27			55
		検査件数	168	0	168	162	0	162	660
		陽性件数	0	0	0	0	0	0	0
	分別推定法	検査頭数	0			0			0
		検査件数	0	0	0	0	0	0	0
		陽性件数	0	0	0	0	0	0	0
	陽性頭数(検出薬剤)		0			0			0
検査件数合計		336			324			660	

				牛			豚			計
				腎臓	肝臓	筋肉	腎臓	肝臓	筋肉	
機器分析による定量試験法	合成抗菌剤	サルファ剤*	検査件数	0	0	84	0	0	135	219
			陽性件数	0	0	0	0	0	0	0
	内部寄生虫用剤	検査件数	0	0	0	0	0	0	0	0
		陽性件数	0	0	0	0	0	0	0	0
	陽性頭数(検出薬剤)		0			0			0	
	検査頭数		28			27			55	
	検査件数合計		84			135			219	

*牛はスルファジアジン、スルファジミジン、スルファジメトキシシ

豚はスルファジアジン、スルファジミジン、スルファモノメトキシシ、スルファジメトキシシ、スルファメトキサゾール

(11) 残留抗菌性物質精密検査関係

			牛			子牛			豚			計
			腎臓	肝臓	筋肉	腎臓	肝臓	筋肉	腎臓	肝臓	筋肉	
検査頭数			114			4			208			326
検査件数			438			12			636			1,086
残留抗菌性物質検査内訳	直接ディスク法	検査頭数	114			4			208			326
		検査件数	342	0	/	12	0	/	624	0	/	978
		陽性件数	10	0	/	0	0	/	4	0	/	14
	直接法	検査頭数	7			0			2			9
		検査件数	0	0	42	0	0	0	0	0	12	54
		陽性件数	0	0	4	0	0	0	0	0	4	8
	分別推定法	検査頭数	0			0			0			0
		検査件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		陽性件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	定性定量試験 ()	検査頭数	0			0			0			0
検査件数		0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	
陽性件数		0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	

6 食鳥検査関係

(1) 食鳥検査羽数及び食鳥のとさつ、内臓摘出禁止又は廃棄したもの原因

検査羽数		ブロイラー			成鶏			あひる			七面鳥			
		511,212			0			0			0			
内訳		禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	
疾病別 羽数	ウイルス・ クラミジア病	鶏痘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		鶏伝染性気管支炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		鶏伝染性喉頭気管炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ニューカッスル病	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		鶏白血病	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		封入体肝炎	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		マレック病	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		その他	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
	細菌病	大腸菌症	26	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		伝染性コリザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		サルモネラ症	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		ブドウ球菌症	13	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
	その他	1	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/	
	その他の疾病	毒血症	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		膿毒症	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		敗血症	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		真菌病	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		原虫病 (トキソプラズマを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		寄生虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		変性	225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		尿酸塩沈着症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		水腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		腹水症	780	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		出血	649	0	15,581	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		炎症	715	0	12,626	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		萎縮	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		腫瘍	11	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		臓器の異常な形等	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		異常体温	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		黄疸	4	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		外傷	76	0	5,782	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		中毒諸症	0	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
		削瘦及び発育不良	1,165	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/
放血不良	717	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/		
湯漬過度	43	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/		
その他	14	0	/	0	0	/	0	0	/	0	0	/		
計	4,439	0	33,989	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

(2) 残留有害物質モニタリング検査関係

ア モニタリング検査結果

腎臓及び肝臓の検体は、筋肉採取鶏とその同ロット複数羽から採取したものをまとめて1検体としている。

		鶏			
		筋肉	腎臓	肝臓	
生物学的試験法 (バイオアッセイ法)	検体数		5	5	5
	検査件数		30	30	30
	簡易検査法	検体数	5	5	5
		検査件数	30	30	30
		陽性件数	0	0	0
	分別推定法	検体数	0	0	0
		検査件数	0	0	0
		陽性件数	0	0	0
	定性試験	検体数	0	0	0
		検査件数	0	0	0
		陽性件数	0	0	0
	定量試験 ()	検体数	0	0	0
		検査件数	0	0	0
陽性件数		0	0	0	
陽性検体数 (検出薬剤)		0	0	0	

				鶏		
				筋肉	腎臓	肝臓
理化学的試験法 (機器分析による 同定・定量試験法)	検体数			5	5	5
	検査件数			25	25	25
	抗生物質		検査件数	0	0	0
			陽性件数	0	0	0
	合成抗菌剤	サルファ剤*	検査件数	25	25	25
			陽性件数	0	0	0
	内部寄生虫用剤		検査件数	0	0	0
			陽性件数	0	0	0
	陽性検体数 (検出薬剤)			0	0	0

*スルファモノメトキシシ、スルファジメトキシシ、スルファジアジシ、スルファメトキサゾール、スルファジミジシ

イ 精度管理

	微生物学的試験法	理化学的試験法 (機器分析による同定・定量試験法)	計
検査件数	0	159	159

ウ 調査研究

	微生物学的試験法	理化学的試験法 (機器分析による同定・定量試験法)	計
検査件数	0	92	92

(3) 食鳥処理場における微生物試験

ア 一般生菌数

検体		検体数	検査件数	一般生菌数A			
				$A < 10^3$	$10^3 \leq A < 10^4$	$10^4 \leq A < 10^5$	$10^5 \leq A$
処理水 (※1)	予備冷却水	0	0	0	0	0	0
	本冷却水	0	0	0	0	0	0
	湯漬水	0	0	0	0	0	0
食肉(鶏) (※2)	モモ肉	0	0	0	0	0	0
	ムネ肉	0	0	0	0	0	0
食肉(鶏) (※3)	首皮 本冷却水切り後	60	60	0	0	36	24

イ 腸内細菌科菌群数

検体		検体数	検査件数	腸内細菌科菌群数B		
				$B < 10^3$	$10^3 \leq B < 10^4$	$10^4 \leq B$
処理水 (※1)	予備冷却水	0	0	0	0	0
	本冷却水	0	0	0	0	0
	湯漬水	0	0	0	0	0
食肉(鶏) (※2)	モモ肉	0	0	0	0	0
	ムネ肉	0	0	0	0	0
食肉(鶏) (※3)	首皮 本冷却水切り後	60	60	15	38	7

ウ カンピロバクター菌数

検体		検体数	検査件数	カンピロバクター菌数C			
				$c < 10^1$	$10^1 \leq c < 10^2$	$10^2 \leq c < 10^3$	$10^3 \leq c$
処理水 (※1)	予備冷却水	0	0	0	0	0	0
	本冷却水	0	0	0	0	0	0
	湯漬水	0	0	0	0	0	0
食肉(鶏) (※2)	モモ肉	0	0	0	0	0	0
	ムネ肉	0	0	0	0	0	0
食肉(鶏) (※3)	首皮 本冷却水切り後	60	60	40	3	9	8

※1 単位：/ml

※2 単位：/100g

※3 切除法により、同一ロット5羽分を1検体とする、単位：/g

7 証明書交付件数

令和4年度証明書交付件数：811件

8 衛生教育

当検査所を見学した本市関係者及び大学関係者等40名に対し、検査所の業務、BSEの検査方法及び食肉の衛生等について説明した。

9 検査員の研修

(1) 新規採用者及び異動による転入者に対する研修

新規採用者として令和4年4月1日付けで当検査所に配属された職員5名及び人事異動により令和4年4月1日付けで当検査所に赴任した職員4名に対して、令和4年4月～令和4年5月末まで、と畜検査技術、各試験室検査及び実務知識等の研修を実施した。

(2) 職場研修

随時、業務研修会を開催し、と畜検査や食肉衛生に関する新しい知識や技術の習得に努めた。

(3) 所外研修及び研究発表

年月日	名称	場所	演題
令和4年 5月27日	食品衛生業務研究発表会	大阪市役所	<ul style="list-style-type: none"> 管内と畜場における外部検証(枝肉の微生物試験)の実施結果について 分別推定法におけるマルボフロキサシンの感受性パターンについて
令和4年 8月29日～ 9月2日	第63回近畿食品衛生監視員研修会	書面開催	<ul style="list-style-type: none"> 管内と畜場における外部検証(枝肉の微生物試験)の実施結果について
令和4年 9月12日	全国食肉衛生検査所協議会病理部会 第79回病理研修会	書面開催	<ul style="list-style-type: none"> 牛の膀胱腫瘍
令和4年 9月12日	第40回全国食肉衛生検査所協議会 理化学部会研修会	書面開催及び バーチャルフォーラム	<ul style="list-style-type: none"> 分別推定法におけるセファゾリンの感受性パターンについて
令和4年 9月20日	全国食肉衛生検査所協議会微生物部会 令和4年度研修会	書面開催	<ul style="list-style-type: none"> 食鳥処理場における次亜塩素酸ナトリウムの消毒効果について
令和4年 10月14日	令和4年度全国食肉衛生検査所協議会 近畿ブロック会議及び技術研修会	書面開催及び バーチャルフォーラム	<ul style="list-style-type: none"> 豚の大腸表面に認められた結節様病変の肉眼的及び病理組織学的評価
令和5年 1月20日	令和4年度近畿ブロック会 病理検査担当者会議	書面開催	<ul style="list-style-type: none"> 牛の胸腔内及び腹腔内腫瘍 牛の後大静脈腫瘍
令和5年 1月23日～ 2月28日	令和4年度食肉及び食鳥肉衛生検査 技術研修並びに研究発表会	バーチャルフォーラム	<ul style="list-style-type: none"> 食鳥処理場における次亜塩素酸ナトリウムの消毒効果について

10 職員の健康管理と公務災害防止対策

食肉衛生検査に携わる検査員は人獣共通感染症に感染する危険があり、その予防対策として日常検査業務に検査用白衣、ゴム手袋及び長靴等を着用し、予防に万全を期するとともに、一般健康診断のほか、有機溶剤使用に伴う健康診断、トキソプラズマ症の抗体測定及び破傷風の予防接種を受けている。

令和4年度

事業概要

令和5年11月発行

大阪市食肉衛生検査所

〒559-0032 大阪市住之江区南港南5丁目2番48号

Tel 06-6675-2070

Fax 06-6675-2072

Email fc0010@city.osaka.lg.jp